

第一中学校

10月11日～10月15日(4泊5日)

○日程表

10月11日(木)		10月12日(金)		10月13日(土)	
7:00	一中校庭集合・出発式	6:00	起床・健康観察・寝具整理	6:00	起床・健康観察・寝具整理
8:00	調布インター	7:00	清掃・農家のお手伝い	7:00	清掃・農家のお手伝い
11:30	豊科インター	8:00	朝食準備・朝食	8:00	朝食準備・朝食
12:00	白馬五竜スキー場到着	9:00	農作業体験Ⅰ【総合】稲刈り	9:00	
13:00	昼食(弁当)	12:00	昼食(各農家)		
13:30	ウイング21開村式	13:00	農作業体験Ⅱ【総合】畑仕事		※左記の農作業とトレッキングを宿ごとに2日間に分け、交互に実施した。
14:00	各民宿へ移動		トレッキング		
15:00	郷土料理体験【家庭科】		スケッチ・高山植物観察		
18:00	夕食準備・夕食		【体育・美術・理科・国語】		
19:00	夕食 入浴		白馬ジャンプ台見学		
20:00	民宿の方との交流Ⅰ		夕食作り【家庭科】		
21:00	俳句作り・絵手紙書き【国語】		(カレーライス作り)	16:00	夕食
22:00	明日の準備	18:00	夕食 入浴	19:00	学習発表会
		20:00	民宿の方との交流Ⅱ	21:30	入浴
		21:00	行動記録表記入	22:00	行動記録表記入
		22:00	明日の準備	22:30	明日の準備

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・「白馬の環境に学べ」という総合的な学習の時間のテーマを設定し、実行委員会を中心に、事前学習を実施した。

・各教科の連携学習

国語：白馬の自然を題材に、短歌や俳句の学習をした。民泊農家に、自己紹介カードを作成し事前に送付した。

社会：長野県や白馬村の地域の特徴や、白馬村を中心とした産業についての学習をした。

理科：高山植物や自然界の食物連鎖についての学習をした。八方池の目的地までの周辺に咲く花について学習した。

技術・家庭：林業における、木材加工との関連学習。民家で作る郷土料理など食文化の学習をした。

美術：わら細工および、牧歌的な風景のスケッチ方法の学習をした。

長野県北安曇郡白馬村

参加人数 男子47名 女子43名
計90名

10月14日(日)		10月15日(月)	
6:00	起床・健康観察・寝具整理	6:00	起床・健康観察・寝具整理
7:00	清掃・農家のお手伝い・出発準備	7:00	清掃・出発準備
8:00	朝食準備・朝食	7:30	朝食準備・朝食
9:30	林業体験Ⅰ(下草刈・枝打ち・チェーンソー)	8:30	ホテル出発
12:00	昼食(バーベキュー)	9:30	各民宿にてわら細工作成【美術】
14:00	林業体験Ⅱ(薪割り・プレート作成)【技術・理科】	11:30	各民宿にて昼食
16:00	おらが郷出発	12:30	閉村式
17:00	ホテル着	13:00	白馬村出発
19:00	入浴・夕食	14:00	豊科インター
20:00	お楽しみ会	16:00	調布インター
21:00	行動記録表記入	17:30	学校到着・解散式 解散
22:00	明日の準備		

体育：トレッキングの方法や心構えの学習をした。

総合：環境学習について学習。林業と環境とを関連づけた学習を実施した。

- ・セカンドスクール実施2ヶ月前に、民宿農家の方々を学校に招き、「お米が実った」という冊子を活用しながら、白馬村の地域や産業の概略について、実際の農作業の方法や作業内容の説明を受けた。また、「白馬村」という観光パンフレットを活用して、白馬村の地域の特色などについても、丁寧でわかりやすい説明を受け、セカンドスクールに臨む心構えや興味・関心が高まった。

② 事後の学習内容

- ・民泊農家へのお礼の手紙・・・生徒一人一人が、お世話になった農家の方々にお礼の手紙を書き、交流会で手渡した。
- ・事後学習の取り組み・・・5日間の体験の紹介や民家の活動の紹介などを、班毎に模造紙(2枚)にまとめ上げた。
- ・事後交流会・・・お世話になった、すべての農家の方々を学校に招待して、「まとめ新聞」の報告会を行い、農家の方からいただいた、もち米を使用して、餅つき大会を催した。その中で、生徒がお世話になった農家の方々への感謝の気持ちを表すとともに、セカンドスクールで成長した姿を披露することができた。また、交流会の運営では、保護者の協力も得られ、数年にわたって行われてきた交流会をさらに充実させることができた。

○特色ある学習内容

1、農家民宿泊

昨年度より民泊を1泊増やし、3泊実施した。その結果、農家の方々との交流と親睦が、より深いものになった。また、農業体験でも昨年度までの経験を活かし、農家ごとに「稲刈り」「畑仕事」「きのこの収穫」「魚のつかみ取り」「さつまいも掘り」など、組み合わせを考え、少人数で取り組めるようにし、作業内容の質と量を充実させた体験を実施することができた。さらに、郷土料理体験においても、「そばクレープ」「そば打ち」「おやき」「おはぎ作り」「そばクッキー」など、農家ごとに取り組む手順や工夫を凝らしている。また、ホテル泊後の最終日、再び農家にもどり「わら細工」体験を実施した。生徒が、農家の方々と再会したときの様子は、心温まるものがあった。各農家にお世話になった生徒の人数が少人数であったため、一人一人の作業内容を質と量で向上させることができたので、生徒にとって、大変貴重な体験になった。その一面としては、農家の方々の受け入れが5年目を迎えたこともあり、生徒に対する対応のノウハウができていたことが、大きな要因であると思われる。さらに、JA大北をパイプとして学校側と農家の方々との事前打ち合わせを充実させたり、体験活動の様子をこまめに見て回れたりしたことが、例年以上に生徒の体験活動内容の充実につながったと思われる。



【宿の女将さんとの別れ】

【学習発表資料作り】

【風景画スケッチ】

【藁で一輪挿し作成】

2、トレッキング

今年度は、「八方池」へのコースを、農家ごとに実施することとした。実際には、2民宿で合同の行動となり、大人2名で指導しながらのトレッキングであった。教員は、最後尾から足の故障の生徒等のフォローをし、事故防止に努めた。また、故障者3名は、リフト終点まで参加し、スケッチをしながらレストランにて待機し、昼食後、合流し、後のプログラムに参加した。

今年度は、ガスのなかでのトレッキングとなったものの、一部のグループでは霧が晴れ、白馬三山を眺めることができた。素晴らしい景色に助けられたこともあって、ほぼ全員が目的地に到達することができ、「自然を大切に作る心」がはぐくまれた、達成感と充実感を味わうことができた。

3、林業体験

昨年度につづき、指導員の方を増員してもらい、生徒一人一人の体験活動における内容の質と量を充実させることができた。実施場所は「中谷郷」という山間で、「下草刈り」「枝打ち」「丸太きり」「チェーンソー体験」「薪割り」の一連の作業を一日かけて体験することができた。

この体験活動では、生徒が指導員の方々の丁寧な指導のもと、一人一人に「鎌」と「のこぎり」が配られ、森を守るための「下草刈り」からの一連の作業に関わることが、充実した活動につながった。また、体験活動に汗を流して一生懸命取り組めたおかげで、地域で採れたきのこを利用した「きのこ汁」などの昼食を、より一層おいしく食べることができた。



【チェーンソーの実習】



【斜面で下草刈り】



【畦での写生】



【稲刈り中に一息】

4、白馬村オリンピックジャンプ台

オリンピックの会場であり、スタート地点の高さにびっくりしたり、リフトに乗りながら、すぐ近くを空高くジャンプしている選手を想像したりして、普段体験できない貴重な体験をすることができた。さらに、ノーマルヒルとラージヒルの比較や、ジャンプ台の資料館を見学して、ジャンプ台の歴史なども学ぶことができ、内容のあるジャンプ台見学となった。

○生徒の感想

- ・実行委員の集まりや担当の仕事に一生懸命取り組み、仕事は大変だったが、事後集会の中で、セカンドスクール全体をとおして、「楽しかった」「中学校生活で一番の思い出になると思う」と感想を述べてくれたことで、充実感と達成感を味わうことができた。
- ・農家の方々との閉村式後、バスに乗り込みお別れをするとき、最後まで手を振っていた。
- ・農家の方がとても親切で食事も手作りのおかずが多くとてもおいしくいただくことができた。
- ・農作業では、コンバインやバインダーを運転できたり、林業体験では、チェーンソーを操作させてもらったり、実際に自分で運転や操作ができたことが印象に残っている。

○保護者の感想

- ・民泊を主とした体験活動や事後の交流会を通して、人と人とのつながりや絆が深まったようで、家庭での会話も増えたとの感想が多かった。

○総合的な学習の時間との関連

本校の総合的な学習の時間における「環境」を学ぶ上でのステップとして有効な手立てになった。今後のプレゼンテーションに向け、1つの中間発表とし、さらに研究を深めさせる。

○小学校セカンドスクールとの関連について

「楽しい思い出」の多い小学校での体験活動から、教科との関連を意識した学習やけっして楽とは言えない農業や林業の労働体験を含めた中学生らしい体験活動に発展させていくことが大切ではないかと考えている。

○次年度に向けての反省・課題

- ・農家の方々の高齢化への対応として、体験活動の実施内容の質・量をどのように維持できるかを考えていく必要がある。
- ・農作業などを含め、宿ごとの生徒の自主的な活動を、より踏み込んだ体験活動として、農家の方々と検討のうえ、第一中学校らしいものを確立したい。
- ・農家の方々との、事前学習と事後学習（交流会）を、今後も継続して実施したい。

第二中学校

5月29日～6月2日(4泊5日)

○日程表

5月29日(火)		5月30日(水)		5月31日(木)	
7:00	学校集合・出発式	6:30	起床		
7:30	出発 所沢ICより関越自動車道 六日町IC下車 安塚へ	9:00	「飯盒炊爨」		全日 「農家体験」
12:40	キュービットヴィレッジ着				
13:30	開校式 「中山間地域体験」 花の町おこし 雪の貯蔵庫 棚田体験 山菜採り	13:30	キュービットヴィレッジ発 松之山・浦田へ移動		
16:30	活動終了・宿舎着	15:00	浦田着 「田植え体験」	16:00	活動終了・農家とのお別れ式
21:00	班長会・部屋会議	17:00	民泊農家との顔合わせ	17:00	宿舎(千歳)着
22:30	就寝	17:30	各農家へ移動 「農山村生活体験」 農家泊	20:00	「体験のまとめ」
				21:00	班長会・部屋会議
				22:30	就寝

○前年度との変更点

昨年度のセカンドスクールから、それまで松之山・浦田地区で実施してきた2泊の農家泊・農家体験が、高齢化、過疎化等の理由により1泊に縮小された。そのため、新たな活動場所を探し、昨年度は1日目から2日目午前にかけての体験活動・宿泊地を上越市、柿崎に変更し、海に関する体験活動や雪国生活にかかわる見学等を取り入れた。しかし、対予算効果が思ったほどあがらず、その体験活動を全面的に見直すこととなった。そこで本年度は1日目の宿泊地を上越市、安塚地区に再度変更し、2日目午前まで安塚地区で体験活動を実施することとした。なお、2日目午後からは従前どおり、松之山及び浦田地区での分宿による農家体験及び農業体験、全体でのハイキングを実施することとした。

○セカンドスクールにおける学習内容

① 事前の学習内容

- ・社会科…新潟県について、地形や気候、産業等の全般的な知識を学習した。
- ・理科…農業体験、自然観察の時に役立つよう、植物について全般的な学習をした。
- ・家庭科…飯盒炊爨で取り組むメニューに、どのような地元の食材が取り入れられるかを考えさせた。また、当日の作業手順等について話し合わせた。
- ・総合…雪国、中山間地域での暮らしを学習し、体験活動について考えさせた。

新潟県上越市・十日町市

参加人員 男子52名 女子47名
計 99名

6月1日（金）		6月2日（土）	
6:30	起床	6:30	起床
9:30	出発 大巖寺高原着 「ブナ林観察ハイキング」	9:00	宿舎発 森の学校キョロロ着 「松之山の自然、美人林見学」
		11:00	閉校式 松之山発 塩沢石内 IC より関越自動車道へ 練馬 IC より学校へ
15:30	宿舎着	15:40	学校着
19:30	「合同学活」	16:00	合同学活後解散
21:00	班長会・部屋会議		
22:30	就寝		

② 事後の学習内容

- ・民泊農家へのお礼状づくり

生徒一人一人がお世話になった農家の方へお礼状を作成した。国語の時間に書き方を指導し、封筒の宛名書きを含めて、総合的な学習の時間に一斉に書く時間を設けて実施した。

- ・セカンドスクール班新聞づくり

5日間の体験活動の紹介を班ごとに模造紙にまとめた。この班新聞を土台にして2学期にポスターセッションを行い、発表した。

- ・セカンドスクール個人レポートづくり

班新聞とは別に、5日間の体験の中で各自が特に印象に残った事柄について、夏季休業を利用してまとめた。

- ・セカンドスクール・ポスターセッション

事後学習の最後に、5日間の体験活動で得た事について班単位で発表グループを組み、ポスターセッションを行った。これについては後ほど述べる。

○特色ある活動内容

1、田植え体験

小学校セカンドスクールの活動内容によっては、小学校で田植え体験をし、中学校でも田植

え体験をすることになる生徒もいる。ここ数年、本校に入学してきた境南、桜野両小学校の児童は、秋のセカンドスクールを体験してきているので、農家が持っている田んぼで田植えをするという体験は初めてである。

桜野小学校ではセカンドスクールに合わせて稲についての学習を実施し、学校で稲を育てる取り組みも行った、ということの後日小中連絡協議会で聞いたが、やはり、農家の田んぼでの田植えは初めてと

いうこともあり、最初はどやって足を運ばばいいかもわからず、農家の方々に動き方から教わっての田植えとなった。田んぼ2枚を100人の生徒で約1時間強、最初は植え付けの深さもよくわからずに置いているだけだった生徒も、最後はしっかりと植えることができた。



【田植え体験】

2、農業体験

本校のセカンドスクールのメイン活動として位置づけている体験である。田植え体験の後、松之山・浦田地区の約30戸の農家に分宿し、農家の方々と田舎暮らしを体験した後、その農家の方の指導で翌日1日農業体験をするプログラムを組んでいた。

ところが、本年度はその農業体験の日に外に出られないほどの雨が降ってしまい、活動は屋内でできる作業に限定されてしまった。それでも、前日までに収穫していた野菜や花を出荷用に袋づめをする作業をしたり、「あんぼ」と呼ばれているこの地方ならではの菓子づくりをしたりと、工夫を凝らした田舎体験をさせていただいた。

1泊2日のおじいちゃん、おばあちゃんとの田舎暮らしではあったが、ほとんどの生徒が5日間を通して一番印象に残り、楽しかった体験であったと言っている。

3、大巖寺高原でのブナ林観察

第二中学校では、松之山でセカンドスクールを実施するようになって以来毎年訪れている場所である。高原の中心は観光用のレストハウスがあり、開けた感じがする場所であるが、一步山に入ると水源涵養林が広がっている。そのブナ林の中をインストラクターによる説明を受けながら生徒は進んでいく。2時間半程度のアップダウンの続くコースではあるが、



【大巖寺高原でのブナ林ハイキング】

所要所での楽しい動植物の説明に耳を傾けているとその時間も忘れ、あっという間に終わってしまう。生徒もインストラクターにいろいろと質問をしながら山についての理解を深めることができたハイキングであった。

○生徒の感想

実施時期が5月末のため、入学してから十分な準備時間もなかなか取れない中、各クラス3名の実行委員の生徒が、係活動の中心となり、全体をよく動かしていた。1年生全体がこのセカンドスクールを通して大きく成長したが、その中でもリーダー役としてがんばった実行委員の生徒たちは特に大きく成長した。セカンド後、最後のまとめの委員会で、「最初のうちは、自

分たちの指示にもなかなか従ってくれなかったけど、4日目ぐらいからはこちらからも上手に指示をすることができたし、みんなも協力して指示に従ってくれるようになった。」というような感想が何人からも出た。生徒たちも自らの成長が実感できたセカンドスクールであったことが伺える。また、「小学校のセカンドと違ってあつという間に最終日になってしまうから、一日一日を大切にしたい。」という次年度へのアドバイスや、「修学旅行の時に実行委員会を作るならまたやりたい。」という2年後が楽しみな意見も実行委員会では出た。

○保護者の感想

7月上旬、活動の様子をまとめたビデオを保護者に見ていただいた。「友達と楽しく活動していて何よりです。」という感想が多かったが、農業体験が雨でできなかったことについて、「活動プログラムを天候によって動かせる工夫がほしい」というご意見をいただいた。

○総合的な学習の時間との関連について

本校では普段の総合的な学習の時間から、教科間の横断的な学習に力を入れている。本年度のセカンドスクールでは1日目の中山間地体験のコースの一つに「山菜採り」を設けた。中山間地域の学習という社会科の学習活動をメインにしながらも、そこに自生する植物を知り（理科）、採った山菜を調理してみる（家庭科）という横断的な学習体験を設けたが、好評であった。

また、本年度は事後の学習として、セカンドスクールの体験で得たことを発表するポスターセッションを実施した。このポスターセッションは「誰にでもわかりやすく課題解決策を提示するプレゼンテーション能力の育成」を目的に準備を進めた。1年生のポスターセッションという、とにかく発表者が原稿を棒読みで、聞き手とのやり取りが今一步ということが多いが、自分たちの体験してきたことを改めて調べなおし、クイズや寸劇形式で聞き手を引き込む工夫をするなど、発表を通して課題への理解を深めることも十分にできた。

○小学校セカンドスクールとの関連について

田植え体験の項でも述べたが、本校では入学してくる生徒の小学校セカンドスクールの実施時期が春と秋でずれているため、季節の違いを生かした別の活動を組むことができる。しかし、小学校で稲刈り体験の実施や、理科における「稲」の学習を踏まえて、中学校での事前学習、現地での活動プログラム作りをするとさらに学習効果が高まる。このことは中学校で実施する他のすべての活動にも当てはまる。

活動プログラムは小学校、中学校双方にとって、教育課程とも関わる重要なものであるだけに、次年度以降、小中連絡協議会等で積極的に情報交換を進めていく必要がある。

○次年度へ向けての反省・課題

セカンドスクール実施中、農家泊を2泊にした方が子どもたちとの触れ合いがより一層増して内容の濃い体験ができるのではないかと、という話が現地の方、学校の双方から出てきた。現地での高齢化がネックとなり、昨年度、本年度と農家泊は1泊ということでセカンドスクールを進めてきたが、帰校後の現地との交渉によって来年度は農家泊を2泊に戻した以前の形にすることができた。また、それに伴い、活動プログラムも以前のを全て踏襲するのではなく、あらたに林業体験を付け加え、環境問題とも関連づけた学習を取り入れることとした。次年度のセカンドスクールでの取り組みを成功させ、今後何年かの第二中学校の基となるよう準備をしたい。

第三中学校

5月18日～5月22日(4泊5日)

○日程表

5月18日(金)		5月19日(土)		5月20日(日)	
7:35	学校集合	6:30	起床	6:30	起床
8:00	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食
12:15	昼食	8:30	農業体験(田植え・蕎麦まき)	8:30	宿舎出発
13:15	上伊那農業高校体験学習	12:00	昼食		小熊山トレッキング開始
	*摘果	13:30	体験学習		*班行動
	*食品分析		*蕎麦打ち	11:30	*パラグライダー発着基地で昼食
	*チェーンソー		*ジャム作り	14:30	サンアルピナ鹿島槍スキー場出発
	*牛の胃液	17:30	夕食	15:10	宿舎着
15:00	*トラクター	18:30	スタンプ練習	16:00	スタンプ練習
16:45	宿舎着、開校式	20:00	入浴	18:10	夕食
17:30	夕食	20:30	班会議	19:00	入浴
18:20	稲作講義	22:00	就寝	21:00	班会議
19:30	入浴			22:00	就寝
20:30	班会議				
21:30	就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

入学後1ヵ月余りで実施という事もあり、オリエンテーションも兼ねながら、それぞれの教科の授業内で事前学習を行った。

- ・国語科・・・俳句についての基礎知識(切れ字・季語など)を学習した。
- ・社会科・・・地図帳を用い、地形や交通網の整備について学び、気候や地形と産業の関連についても考えた。
- ・理科・・・上高地に生育する植物の基本的な構造について学習した。
- ・音楽科・・・歌唱のオリエンテーションとして、歌う姿勢、口のあけ方、発音の仕方の順で指導を行った。
- ・家庭科・・・食品加工(蕎麦打ち・ジャム作り・ニジマスの塩焼きなど)について学習した。
- ・技術科・・・自然の中での樹木の役割を通して木製品について考えさせた。
- ・総合学習・・・体験活動から総合学習のテーマに基づく課題設定の仕方を考えさせた。
後で作成する班新聞と個人ファイルの作り方を学んだ。

長野県大町市

参加人数 男子64名 女子43名
計107名

5月21日(月)		5月22日(火)	
6:30	起床	6:10	起床
7:30	朝食	7:20	朝食
8:30	宿舎発(バス)	8:30	閉校式(駐車場)
9:00	鹿島川河原着 *飯盒炊飯 (カレーライス・寒天ゼリー作り) *ニジマスつかみ取り	8:40	宿舎出発
13:30	鹿島川河原出発	9:50	国営アルプスあずみの公園着 *安曇野の映画鑑賞 *館内見学・体験学習 *公園トレイル
14:10	宿舎着	12:30	公園内で昼食
15:00	自由時間	13:00	公園出発
17:30	夕食	15:00	談合坂SAにて休憩
18:30	キャンプレク 開始 (神社内)	16:45	学校到着
19:40	終了後、入浴		帰校式
20:30	班会議	17:00	解散
22:00	就寝		

② 事後の学習内容

- ・国語科・・・セカンドスクールの体験にもとづき、俳句を個々に作らせた。
- ・社会科・・・一学期の後半に学習する身近な地域の学習と関連づけさせた。
- ・理科・・・上高地での植物のスケッチをもとに、植物の種類について学習した。
- ・音楽科・・・セカンドスクールで経験した歌う喜びを授業の中で生かしていった。
- ・家庭科・・・食品加工、貯蔵の原理・方法など、体験学習をもとに学習した。
- ・総合学習・・・体験学習をもとに、壁新聞(班)作りを行った。また、個々に興味関心を持った事柄について調べ、個人ごとにまとめ学年全体で発表した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、小熊山トレッキング

木崎湖畔の宿舎から小熊山山頂を經由し、サンアルピナ鹿島槍までのコースを6時間かけてトレッキングを行った。植物の生育や小熊山の地形など、実際に体感し、山菜を摘みながらの活動となった。晴天にも恵まれ小熊山の持つ美しい自然を満喫する事ができた。山頂から見下ろす景観の良さに生徒は大喜びであった。



【小熊山山頂の昼食風景】

＜学習体験活動＞

1、上伊那農業高校

各科ごとの農業体験を行った。生徒の希望に応じて、リンゴの摘果・牛の胃液中の微生物観察・食品分析・チェーンソー・トラクターに分かれ、教員と高校生が指導する実習に参加した。生徒にとって、農業高校の授業の特色と内容を知ると共に、貴重な体験学習ができた。

2、アルプスあずみの公園

安曇野の台地に生きる蝶をテーマにした映画を鑑賞し、自然の役割を学習した。また、川魚の水族館を見ながら自然環境保持の大切さを知り、長野県内で採れた木の実や木材を用いたおもちゃづくりを行った。公園内を散策「トレイル」は自然を満喫しながらのものとなった。

＜生活体験活動＞

1、田植え体験

前日に宿舎ごとに地元の農協の方を講師に迎え、イネの性質から稲作の生育方法全般について学習会を行い、翌日の田植えの方法など具体的に教わった。実際の田植えでは、学級ごとに一反の田植えを行った。教わった通りに田植えが出来、講師からも褒められて生徒も大喜びであった。

2、食品加工体験(蕎麦打ち、ジャム作り)

全員が班毎に分かれ、蕎麦打ち・ジャム作りを行った。地元の方を講師に迎え、蕎麦粉・ブルーベリーの材料から加工方法までの説明を聞き、実際の加工体験を行った。身近な食品だけに、興味を持って取り組んでいた。

3、飯盒炊飯

鹿島川の河原にて飯盒炊飯を実施した。班毎にカレーライス・寒天ゼリー作りに取り組んだ。風向きや薪の組み方などを考慮し、河原の石での釜戸作りでは、各班が試行錯誤していた。川原の水で冷やして作った寒天ゼリーとあつあつのカレーライスを食べる生徒の顔は、満足感にあふれていた。地域の方々の自然環境に関する配慮を強く感じる事ができた。

4、ニジマスのつかみ取りと塩焼き

鹿島川の溜池を利用し、ニジマスのつかみ取りを行った。今年は雪解けの水量が少なく、溜池も時間ごとに水が減る状況であった。水は大変冷たかったが、夢中になって魚を追い込んで捕まえていた。中には、初めて生きた魚をつかむ生徒もいて、自分の手で捕まえたことに満足し、いい笑顔を浮かべていた。また、焼いたニジマスは、全員がおいしそうに食べていた。

○生徒の感想

- ・セカンドスクールを通して多くの仲間を作ることが出来た。クラスが一つになった。
- ・蕎麦打ちの体験では自分で打った蕎麦を食べたけど、以外においしくてよかった。
- ・水も空気も食事もおいしかった。お世話になった宿のみなさんありがとうございました。

○保護者の感想

- ・四泊五日のうちに子供が大きく成長したように感じました。

- ・体調を崩した子供にも適切に対応していただき、ありがとうございました。
- ・子供にとって貴重な体験を出来てよかったです。

○総合的な学習の時間との関連について

セカンドスクールでは、日頃体験できないような貴重な体験学習を実行することによって、生徒は、身近な生活に対して、自分の経験をもとに新たな視点を持つものである。この視点は、更なる興味・関心や新たな疑問を引き出すものである。こうした生徒の興味や関心を総合学習として発展させていくことは、生徒にとっても良い機会になると考える。

<学習の流れ>	<生徒・教師の活動>
①教師による学習テーマの設定	○学習テーマ「自然・環境等の問題」
②生徒による学習課題の設定	* セカンドスクールでの体験予想からの課題設定 * 課題例からの課題選択
③調べ学習・体験的な学習（Ⅰ）	* セカンドスクールでの体験学習の実際
④生徒による発展課題の設定	* 設定・選択した課題の深化・発展による具体化
⑤調べ学習・体験的な学習（Ⅱ）	* 設定・選択した課題に対する調べ学習
⑥生徒による学習成果の発表	* 文化祭での班・個人による掲示発表 * 学級・学年での展示・口頭発表
⑦学習成果に対する評価活動	* 展示・口頭発表に対する評価活動

○小学校セカンドスクールとの関連について

小学校のときに体験した田植えを生かして、稲の成長や専門知識を学び、クラスで一反の田植えを行った。小学生から触れる機会が重なり、総合学習で「稲」に関するテーマを個人学習を進める生徒が多くいた。

○次年度に向けての反省・課題

前年度に引き続きトレッキングのコースを「小熊山」にした。生徒の体力・身体的なことを配慮し「小熊山」のトレッキングを行ったが、テーマである「自然・環境」にも即した体験ができた。また、このトレッキングでは、初めての班行動を行い、リーダーの育成にも効果があった。

上伊那農業高校や地元の民宿とも継続した協力関係が築かれており、次年度も引き続き友好関係の継続を考えている。

課題として、第一に、雪解け水の水量によって場所が変わるニジマス掴み取りを取り止めることを考えている。第二に都会との環境の変化に生徒の体調不良者が各宿から続出し、その度に家庭と本部連絡を必要とするケースが多かった。生徒の安全を確保するため、最低限クラス分の連絡用携帯電話の準備を希望したい。

第四中学校

5月30日～6月3日(4泊5日)

○日程表

5月30日(水)		5月31日(木)		6月1日(金)	
7:30	市役所前	6:00	起床	6:00	起床
8:00	バス発	6:30	朝食準備		朝食
12:10	昼食	7:15	朝食		農業体験
14:10	うるぎ星の森着	8:15	バウムクーヘン作り体験	12:00	昼食・お別れ式
15:30	夕食準備	12:00	昼食	13:20	体験学習
17:00	夕食	12:45	うるぎ星の森発		・マレットゴルフ
19:30	キャンプファイヤー		各農家へ移動		・水引工芸づくり
			対面式・農業体験	17:30	旅館着
22:00	消灯		夕食・入浴 (農家泊)	18:10	夕食
		22:00	消灯(農家泊)	22:00	入浴
					消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・個人新聞の作成

(内容) 東京から飯田市までの道のり

長野県や飯田市について

尖石遺跡について

水引工芸・マレットゴルフについて

飯田市の農業と農家の人々

米・稲作について

りんごの品種や栽培方法について

星座や高原の植物について

- ・農家への挨拶状・自己紹介カード作り

- ・スローガン作り

- ・生活の決まり作成(服装、持ち物、など)

- ・バスレクの内容、レクリエーションについての企画・練習

- ・キャンプファイヤーの出し物の企画・練習

- ・係会による係活動内容の確認



【りんごの摘果作業】

長野県飯田市

参加人数 男子66名 女子67名
計133名

6月2日(土)		6月3日(日)	
6:00	起床	6:00	起床
7:00	朝食	7:00	朝食
8:00	旅館発	8:45	旅館発
8:40	風越山麓公園着	10:45	尖石縄文考古館着
9:00	登山開始	12:00	尖石縄文考古館発
11:30	虚空蔵山頂	12:20	昼食(おぎのや諏訪店)
13:00	風越山麓公園着	13:30	出発
15:50	旅館着	16:50	市役所駐車場着
18:00	夕食	17:00	解散
19:00	レクリエーション大会(～20:40)		
22:00	消灯		

② 事後の学習内容

- ・実行委員会作成のアンケートを実施しその結果をまとめ、学年集会で総括した。
- ・一人当たり農業体験を含む二つのテーマを選び、大きい画用紙に事後学習新聞としてまとめ掲示発表した。また、総合学習の時間にクラス内で読み合わせを行い、互いに評価しあった。その際に投票により優秀な作品を讃えた。
- ・しおりをまとめ、感想の作文を書いた。
- ・国語の時間にお世話になった農家へお礼の手紙を書いた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、風越山麓の虚空蔵山(こくぞうやま)登山

飯田市の北西部郊外にある標高1,130mの虚空蔵山こくぞうやまに登った。例年の富士見台高原登山はロープウェイ点検のため、今年度は虚空蔵山登山となった。

登山としては中学生に適切なコースであった。しかし山頂が狭く見晴らしポイントも少ないので、できれば富士見台高原登山にした方が良好であろう。

インストラクターの方が登山途中や下山後、山道の石楼にまつわる話や風越山麓の自然や野生動物の話をしてくださった。地域の方の地元の自然を愛する思いや、人間と自然動物との共生について深く考えさせられ、生徒たちは熱心に話を聞いていた。

<学習体験活動>

1、伝統工芸

水引美術館「せきじま」において、飯田市の伝統工芸である水引の歴史と水引美術館の作品及び実演の様子を見学し、その後水引で作品を作る体験学習をした。指導も丁寧で分かりやすく、きれいなブローチを作り上げよい土産となった。日本の伝統工芸について知る大変貴重な体験ができた。

2、尖石(とがりいし)縄文考古館

5日目帰路に、諏訪にある、尖石考古館に立ち寄り、貴重な縄文時代の土偶（国宝縄文のビーナス）や磨製石器を研ぐために使ったといわれている尖石などの実物を見学し、社会科の学習として大変貴重な体験ができた。

<生活体験活動>

1、キャンプ体験

バスの乗り入れや防寒対策の課題を残した大平宿に代え、昨年度から平成14年度に一度利用した「うるぎ星の森オートキャンプ場」に変更することとなった。新しい施設で整備されており、一校貸切、またキャンプ場の方々も丁寧に対応してくださり非常に良かった。

生徒たちは飯盒炊さん（カレーライス）、朝食（オープンサンド）準備を行ったほか、炊事の火を利用しバウムクーヘン作りにも挑戦した。森の中のキャンプ場は自然に満ち溢れ、夜には満天の星を見上げ、朝は小鳥の鳴き声で目が覚めた。周囲を気にせずキャンプファイヤーも楽しむことが出来た。標高の高い山でのテント泊であったが、防寒についての事前の指導が徹底したこともありみな元気であった。雨天ではあったが、要所で雨がやみ、自然の厳しさとその自然が見せる美しさの両面が体感できる有意義なキャンプ体験であった。

2、農家泊と農業体験

2日目の午後から3日目の昼食まで、4人程のグループになり、売木村とその周辺の各農家へお世話になった。各農家は生徒の受け入れには慣れており、南信州観光公社が受け入れ先の調整をしてくれた。生徒たちは各々事前に農家へ自己紹介カードとご挨拶の手紙を書き、当日を迎えた。

農家では大変歓迎してくれて、子どもたちもその日のうちに、農家の方々とうち解けて、嬉しそうに農業体験をしていた。挨拶状送付時に生徒の顔写真をはった自己紹介カードで顔と名前が一致し、好評だった。

32軒の農家に分泊し、りんごの摘果、野菜の種まきなど、農家の仕事を体験できただけでなく、各家庭の温かいもてなしを受け、一様に大変満足して帰ってきた。ほとんどの生徒が事後作文でこのことを書いており、セカンドスクールで最も印象に残る思い出のようだ。

<地域の人々とのふれあい>

飯田市発祥のスポーツであるマレットゴルフを、地元のマレットゴルフ協会の高齢者の方から指導を受け行った。高齢者の方々にやさしく教えてもらいながら、マレットゴルフを通して地域の方々と楽しく交流を持つことができた。

○生徒の感想

- ・私が、セカンドスクールで一番心に残ったのは、農業体験です。
- ・次の日、農家のお母さんと別れる時とても寂しかった。そのくらい農家は楽しかった。
- ・バウムクーヘンを竹を使って作ったのは新鮮でした。作業は大変だったけど出来栄もよくとてもおいしかった。
- ・キャンプ場での飯ごう炊さんは、班のみんなと協力できて楽しくおいしくご飯を食べることができた。
- ・4日目のレクリエーションは実行委員が良く準備してくれて、クラス対抗のゲームもとても盛り上がった。シンデレラの劇も楽しく、もう最高でした。

○保護者の感想

参加する前は期待半分不安も半分、という様子でしたが、終わって帰ってきたときは農業体験やキャンプ体験をはじめとする諸体験でも充実した活動ができたようで、色々な話を聞かせてくれました。また友達とのふれあいもたくさんできて、新しい友達が増えたとか、違った一面を発見した、といった話しを聞きました。

○総合的な学習の時間との関連について

1学年の総合的な学習の時間のテーマは「ともに生きる力をつける」である。自然や環境との共生も考えて学習を進めるにあたり、今回のセカンドスクールはその基礎となるものである。農業体験や自然体験を通して実体験したことが生かされていくことと思う。

○小学校セカンドスクールとの関連について

小学校でもセカンドスクールを経験していることもあり、自然と触れあったり、地域の方々と交流したりすることにはごく自然に、そして興味を持って入っていけると思った。

○次年度に向けての反省・課題

自然との共生、人との共生、そして日常と違う生活体験を共にすることによって、協力することの大切さや仲間の良さを知る、という目的は達成できたと思う。また、さまざまな事前の活動も生徒が受身でなく、実行委員を中心とし自分たちの役割に一人一人が積極的に取り組めた点は非常に評価できる。これをこれからの学校生活でも生かし、伸ばしていけるよう指導していきたい。

また、生徒の中で非常に印象が強かった農業体験では、実質1日の体験時間であり、生徒たちにとってとても短く感じられたようである。セカンドスクールのねらいにもよく合致した農業体験の時間を、もっとたくさん取れたら良いと思われる。しかし、その実現には農家の協力が不可欠であり、難しい課題もあるようであるが、今後実現に向け努力していきたい。

第五中学校

9月27日～10月1日(4泊5日)

○日程表

9月27日(木)		9月28日(金)		9月29日(土)	
8:00	集合	6:00	起床	6:00	起床
8:10	出発式	8:00	宿舎発	9:00	農家体験出発
11:40	ビレッジ安曇野着	9:45	上高地着		各農家へ
12:00	開校式	10:00	班別オリエンテーリング開		農作業体験
13:00	ワサビ田農作業体験		始		昼食
14:30	大王わさび園散策	15:00	オリエンテーリング終了		農作業体験
16:00	宿舎着	16:30	上高地発		夕食づくり
18:00	夕食	18:00	宿舎着		
19:00	わさび漬け作り	19:00	夕食		農家泊
20:00	竹とんぼ作り	21:00	キャンプファイヤー		
21:00	実行委員・班長会議	21:30	実行委員・班長会議		
21:30	班会議	22:00	班会議		
22:00	就寝		就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

1. 事前学習の内容

6月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・セカンドスクールの概要学習 ・セカンドスクール個人課題調べ学習
6月中旬～7月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員を中心としたセカンドスクールの企画・運営 ・個人調べ学習 ・行動班と係分担の決定(係会議)
9月上旬～9月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・農家の方々への手紙作成(自己紹介・班員の写真) ・農家の方々への質問・インタビューシナリオ作成 ・班行動コースの決定 ・部屋割り ・農家体験先の決定(農家班) ・バス座席決め ・事後学習のための学習計画作成 ・前日指導

2. 総合的な学習の時間のために

事前に安曇野という土地に対する興味関心を喚起するために28テーマ(①地理②観光③歴史・文化④産業⑤水⑥動植物・天体)を各クラスで1人1つずつ担当した。インターネットや書籍を使って個人新聞を作成し、壁新聞として掲示し、個人が学習した内容を共有した。自分が調べて得た安曇野に関する知識と、友人の発表から得た知識により、安曇野に対する興味関心が喚起された。また事後学習に向けての現地での学習計画も立て、農家の方々へのインタビューや写真撮影計画などを各班で話し合い、現地での体験を漫然と見過ごさないように配慮した。

長野県安曇野市

参加人数 男子58名 女子22名
計 80名

9月 30日 (日)		10月 1日 (月)	
7:45	農家から帰着	6:00	起床
9:00	宿舎発 (徒歩で登山口へ)	8:00	閉校式
9:30	南社会体育館到着・体育館レク開始	9:00	宿舎発
12:00	体育館レク終了・体育館発	10:00	木崎湖着・そば打ち体験
12:30	昼食 (マイクロバスで宿舎へ)	12:30	昼食
14:00	合唱練習	13:30	宿舎発
15:00	ビレッジ周辺散策	17:00	学校着・解散式
18:00	夕食		
19:00	学年レクリエーション		
21:00	実行委員・班長会議		
21:30	班会議		
22:00	就寝		

②事後の学習内容

10月中旬～下旬	<ul style="list-style-type: none">・セカンドスクールを終えての個人感想文の作成・セカンドスクール中の学習・生活を振り返るアンケート →実行委員が作成・集計を行い、結果新聞を発行・お世話になった農家の方々へのお礼状作成・セカンドスクールで学習したことを各班で模造紙1枚にまとめる →各班に6つのテーマ (それぞれ割り振り個人で担当) ①ワサビ田体験 ②農家体験 ③上高地ハイキング ④光城山・長峰山登山 ⑤宿舎での生活・体験 ⑥宿舎周辺散策 各個人で絵・写真・資料・紹介文を入れ、構成したパンフレットにまとめた。
11月中旬	<ul style="list-style-type: none">・各班でまとめた新聞を使って事後学習発表会を実施した。セカンドスクールの保護者報告会では、ビデオを流してセカンドスクール中の様子を伝えた。
3月上旬	<ul style="list-style-type: none">・文化発表会の作品展で事前・事後学習で作った新聞を展示する予定。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、上高地オリエンテーリング

日本有数の景勝地であり、自然溢れる国立自然公園でもある上高地には、周囲を3000メートル級の山々が取り囲み、その山々から流れる梓川の清流を軸として織りなされている。今回のオリエンテーリングは河童橋を起点にして、梓川上流の明神池・下流の大正池の二つの池をめぐるコースを8の字を書くように班ごとに行った。大正池まではカラマツ・ハンノキの林を通り、上高地を世間に紹介したウェストンを称えるレリーフがあり、田代湿原を過ぎると焼

岳の噴火によってできた大正池が眼前に広がる。明神池までは上高地を詳しく案内してくれたビジターセンター・土砂の堆積した白い砂浜・コナシやシナノキなどの林を歩き、明神池とそのほわりには奥穂高神社がある。途中のチェックポイント（明神池・ビジターセンター・河童橋・田代橋・大正池）を通過し、事前に出されていた上高地のクイズを班員と考えながら散策した。各グループとも事前に立てたタイムスケジュールに従い、協力しながら自然を満喫し、体験することができた。最後のほうに雨が降ってきたが、ほとんどの班が範囲内を周回できるよう設定したコースを回りきることが出来とてもよかった。

2、ビレッジ安曇野周辺散策

宿舎であるビレッジ安曇野の周辺には、安曇野の名産であるワサビを育成する田んぼや、米田・そば・かりんなどの畑が取り囲む風景が広がる。文化的な施設としても、あずみ野ガラス工房や山岳写真家・田淵行男記念館があり、安曇野への造詣を深めるのに一役買っている。当日は雨天で行動に制限が出たが、名水百選の水をたたえた憩いの池などでも、ゲンジボタルの幼虫を発見する生徒などがいて、この地の自然の純度が非常に高いことを改めて実感することができた。4泊5日の生活の中で、田園風景の中に含まれているビレッジ周辺をゆっくりと散策する時間をとったことで、ゆったりと流れる日本の原風景を体感することができた。

<学習体験活動>

1、わさび掘り・わさび漬け作り体験



【わさび掘り】

安曇野の清流に育まれたわさびは今や国内でも知名度の高い特産品の一つに数えられる。そのわさびの収穫体験と収穫したてのわさびを使ったワサビ漬け作りを行った。見渡せば一面ワサビ田という広大な農場の中で、雪解けの清流に素足を浸し引き抜く作業、葉を取り、毛根を取って、泥を落として手にしたわさびを見て、誇らしげに見せ合う生徒の姿は、体一杯に自然とふれ合えた喜びを表すものだった。その後、農場の方や宿舎の方が講師として、収穫後のわさびを使ったわさび漬け作りを指導していただいた。包丁でわさびを細かく刻み、酒粕と混ぜて悪戦苦闘しながら作ったわさび漬けは、家族への報告と共に、生徒たちの家族への良いお土産となった。

2、竹とんぼ作り

1日目の夜の体験学習として、地元の「名人」を講師に迎え、竹とんぼ作りを行った。小刀を使うことが初めてな生徒も多く、見ているほうがヒヤヒヤしながらの活動であった。竹とんぼが飛ぶ理屈と、それを実現するための加工の説明を聞いてチャレンジするのだが、なかなか名人のようにうまくいかず、四苦八苦するのだが、すこしずつうまく飛ぶようになり、その中から竹とんぼの奥の深さや、昔ながらの遊びやものづくりの難しさなど、得られるもの外多かった体験であった。

3、農作業体験

「ファーストスクールでは体験し得ないものをセカンドスクールで」という趣旨のもと、農家での「農作業体験」をプログラムの中心に組み込んだ。昨年度から農家の方々や地元のご厚意により実施された「農家民泊」を継続させていただき、男子9班、女子各6班の計15班が15件の農家にそれぞれ分宿し、コンバインに乗っての稲刈りや脱穀、そばの実の収穫、さつまいも掘り、野沢菜の間引き、りんご・プルーンの収穫、イナゴ取りなど様々な「農作業体験」をさせていただいた。

<生活体験活動>

農作業体験の合間やその後に、民泊ならではの様々な生活体験をさせていただいた。昼食・夕食の準備を農家の方々と一緒にいたり、収穫したさつまいもを籾殻で焼き芋にして食べたり、イナゴの佃煮を作って食べたり、収穫したくろみでおはぎを作ったり、五平餅を炭火で作ったり、野沢菜の漬け物を食べたりと、食の面ではどの家庭でも、自分の収穫した物を調理し、食すという体験をさせていただいて、改めて農業の重要性を考える機会を与えていただいた。お

寺に泊めていただいた班はお堂の掃除についてなど、お寺の生活を体験した。また、昼からはアルプスあずみの国定公園へ連れて行っていただいたり、市内を流れる犀川で川遊びをしたり、ライトアップされた松本城見学に連れて行ってもらったり、ゲートボールを体験してみたりと、農家の方々の温かい歓待を肌で感じられる体験もさせていただいた。団らの時間には生徒たちの用意したインタビューにも快く答えていただき、生徒を我が息子・娘のように思っただけで接していただいた心遣いに、何よりも人の心の温かさを感じることができた。最終日の閉校式の際には農家の方々が平日にもかかわらず見送りに来てくださり、生徒も合唱で感謝の気持ちを伝えた。生徒たちの別れの名残を惜しむ姿に、この体験で得たものの大きさを伺うことができた。

○生徒の感想

- ・上高地を歩くのは大変だったけれど、この自然を守るためにいろんな人がどりよくしていることがわかりました。
- ・なんといっても農家泊が思い出に残った。トラクターに乗ったり、サツマイモを掘ったりした。農家の方も親切で、本当の家族のようにしてくれた。

○保護者の感想

報告会でビデオを見ながらセカンド中の生活を見せていただきました。子どもたちが普段の生活では見せないような顔を見ただけで、とてもいい経験をしたんだなということがわかります。先生方も大変だったでしょうが、貴重な体験をありがとうございました。

○小学校セカンドスクールとの関連について

2つの学校から来ている生徒がほとんどで、それぞれの学校で違った学習をしているので、五中独自の学習テーマを設定した。

○総合的な学習の時間との関連について

本校第1学年はセカンドスクールに至るまでの総合的な学習の時間のテーマとして「環境・自然」を設定した。今回実施をした安曇野や上高地は多くの自然とのふれあいを通して、環境について考える絶好の機会を与えてくれる土地であった。またこうした恵まれた自然環境から生まれ、発展する、数多くの地場産業を知り、この環境がいかにして形作られ、保全されてきたか歴史的な見識も一層深めることができた。事前学習において「環境・自然」というテーマに沿った課題を選択し、現地をあらゆる角度から調べる作業を行い、それをもって現地で体験を行ったことで、より一層の実感を伴った5日間となった。そして帰京してからまとめの作業で体験や知識を共有し、新たな課題発見への足がかりを作ることに成功したと考える。

○次年度に向けての反省・課題

本年度も昨年同様、「農家体験」を実施の中心に据えて、プログラムを組んだ。その結果、事後に行ったアンケートの中で、生徒たちの印象深かった体験として挙げられたものは、「農家体験」が圧倒的であった。こうした結果をもたらした要因は、安曇野にお世話になって6年目、農家泊を実施して3年目となり、お互いの「信頼関係」が構築されてきたからこそである。その上で、現地の方々が本当に生徒たちのことを考え、何ヶ月も前から準備してくれることで成り立っているということが大きいということを改めて実感した。また、忘れてはならないことが、宿泊行事がもたらす生徒の成長（集団生活における協調性・責任感・男女の敬愛・融和など）であり、今回のセカンドスクールでもこの点の成長は目覚ましいものがあった。こうしたプログラムを継続・発展させるための今後の課題としては、雨天時のプログラムを再考することである。また、木崎湖畔の民宿では天候に左右されないそば打ち体験が農家の皆さんとでき、今後も活用したい。天気は「環境・自然」そのものであるが、やはりせっかくの機会を有意義に使うため、このような環境は2重の意味で有効である。

第六中学校

9月12日～9月16日(4泊5日)

○日程表

9月12日(水)		9月13日(木)		9月14日(金)	
7:30	武蔵境駅南口集合	6:30	起床	6:30	起床
7:45	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:45	宿舎到着 開校式	8:15	出発	8:15	出発
12:30	昼食	9:00	稲刈り体験	10:45	上高地ハイキング
13:30	オリエンテーリング	12:00	昼食		河童橋休憩
19:00	夕食	14:00	わさび掘り	12:30	明神橋 昼食
20:00	農作業体験講義		わさび漬け作り、ガラス工芸	15:00	上高地バスターミナル発
21:30	係会議	19:00	夕食	17:20	宿舎着
22:30	消灯	19:45	キャンプファイヤー	19:00	夕食
		21:30	係会議	21:30	係会議
		22:30	消灯	22:30	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・実行委員会組織作り
- ・実行委員によるパワーポイントを使った概要説明
目標 日程 毎日のテーマ
安曇野市について 稲刈りについて わさびについて 上高地について
- ・きまりの討議、決定
- ・部屋班、行動班、民泊班、バス座席の決定
- ・係会議
- ・民泊農家の方々への手紙作成(自己紹介、写真)
- ・長野県の農業・工業・気候についてのワークシート
- ・夏休み個人学習(スクラップ作り)

「長野県」「安曇野市」「旧豊科町」に関する以下の内容をスクラップブックにまとめる。

「地域」：地理・歴史・文化など

「自然」：気候・風土・動植物など

「産業」：農業・農作物・工業・生産物など

長野県安曇野市

参加人数 男子57名 女子42名
計99名

9月15日(土)		9月16日(日)	
6:30	起床	8:00	ビレッジ集合
7:00	朝食		閉校式
9:00	民泊対面式	8:30	朝食
9:30	各農家へ	9:30	スケッチ 周辺散策
	安曇野生活体験	12:30	昼食
	夕食	13:30	宿舎発
	民泊	17:30	武蔵境駅南口到着 解散

② 事後の学習内容

- ・反省アンケートの実施と集計
- ・感想文提出
- ・民泊農家の方々へのお礼状作成
- ・民泊新聞作成と体験発表

民泊で学習したことを班ごとに新聞にまとめ、学級発表・学年発表を行う。また3月の学習発表に宿舎や農家の方を招待し、体験発表会を行う。

- ・個人テーマ調べ学習

夏休みのスクラップブックと、セカンドスクールでの体験を基にして各自テーマを設定し、調べ、まとめ、発表する。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、上高地ハイキング

大正池を出発し、河童橋で休憩、左岸コースと右岸コースに別れて明神橋を目指した。明神橋で昼食をとった後、往路とは違うコースで河童橋まで戻る。生徒たちは班ごとに行動し、景色を眺め、写真を撮り、自然を満喫した。また班の係（地図係、時計係、写真係）の役割を意識しながら、事前に立てたタイムスケジュールに従って行動することができた。移動中はすれ違う人に挨拶をし、一般観光客と会話する場面も見られた。小雨、曇り、晴れと変化する山の天候を体感することができたハイキングだった。

<学習体験活動>

1、農作業体験講義

初日の夜に現地講師を招き、翌日の体験学習に向けて講義をしていただいた。内容はわさびの栽培と稲作についてである。わさびに関する講義はわさび田の所有者が、栽培に適した地形や水温、そして育て方から収穫までを説明した。また稲作に関する講義は、JAあづみの職員がパンフレットを使いながら、伝統的な天日干しの方法である「はぜがけ」などについて説明した。

生徒たちはメモを取りながら真剣な態度で講義を聞いていた。知識を深め、大切に収穫しなければならないという意識もつけさせる、大変有意義な時間であった。

2、稲刈り体験

今年度から安曇野で稲刈りを行った。開校式の後、地元の農業指導員10名がそれぞれ生徒5ペアを担当し、鎌の使い方や稲の束ね方などを指導した。はじめは恐る恐る稲刈りをしていた生徒たちも、すぐにコツを掴み、積極的に稲を刈った。また刈った稲を束ね、「はぜがけ」という伝統的な天日干しの仕方を実践した。

生徒たちは真剣に稲刈りに取り組み、すべて手作業で行うことや長時間中腰でいることの大変さを理解した。機械化が進んでいるとはいえ、米を作ることの大変さを実感したようだった。また田んぼにいた蛙やとんぼを捕まえて遊ぶ生徒もおり、自然に触れる姿を見ることもできた。

昼食は公民館へ移動し、地元の婦人会の方々が握ってくださったおにぎりを食べた。汗をかきながら体を動かし、苦労した後に食べるおにぎりは、米の大切さを実感させるものであった。

3、わさび掘り・わさび漬け作り

安曇野の綺麗な湧き水で栽培されたわさびは国内でも知名度の高い特産品である。地域の特性を生かしたわさび掘り体験は、生徒たちにとって貴重な体験となった。湧き水の冷たさと綺麗さに声を上げながら、丁寧にわさびを抜き、葉や毛根を取る眼差しは真剣そのものであった。

宿舎ではわさび漬け作りの指導もしていただいた。わさびを刻み、酒粕と混ぜ合わせてできたわさび漬けは、地域の特産品としてのお土産になった。

<生活体験活動>

1、民泊・安曇野生活体験

例年「農作業体験」という名目で民泊をお願いしていたが、今年度は「安曇野生活体験」としたため、農家に限らず21件もの受け入れ先を準備していただくことができた。農作業体験（野菜の収穫・りんご狩り・野沢菜の種まき等）だけでなく、そば打ち・おやき作り・道祖神巡り・川遊び・スケッチ等、多岐にわたる活動を行うことができた。どのご家庭も早い時期から準備をしていただき、1泊だけではあるが、家族同様に接してくださった。その心遣いに生



【稲刈り体験】



【わさび掘り体験】

徒たちも感謝している。武蔵野に帰ってきた後の生徒の思い出話からも、この民泊が大きな意味を持っていることがわかる。

○生徒の感想

- ・ 5日間で果たさなければいけない目標をもって毎日を過ごすことができた。
- ・ 民泊先でぼくたちのために色々なことを用意してくれていて嬉しかった。それから家紋があったことに驚いた。東京の家にはあまりないから、家紋を見たのは初めてだった。
- ・ 上高地ハイキングでは一つの景色に心をうばわれました。とってもキレイで安曇野の自然の良さを表しているようでした。
- ・ 田んぼの広さに驚いた。刈った稲をわらで結ぼうとしても上手に結べなかった。でも農家の方は上手に結んでいたのを見て、苦労して米を作っているのだなと思った。

○保護者の感想

- ・ 家に帰ってきてすぐに民泊の話をしてくれました。大変貴重な体験をしてきたことがよくわかりました。
- ・ セカンド後、少しずつ家の手伝いをするようになりました。
- ・ 武蔵野ではできない体験をさせていただき、ありがたいと感じます。

○総合的な学習との関連について

年間計画の中で、セカンドスクールへの取り組みを中心に位置づけてきた。1学期は、調べ学習やまとめる手段として、パソコンの使い方を学習することから始まった。また夏休みには安曇野の「地域」「自然」「産業」についての記事を集め、スクラップブックを作成した。2学期は民泊で学習したことを班ごとに新聞にまとめ、学級・学年で発表会を行った。3学期はセカンドスクールでの体験を基にして各自テーマを設定し、調べ学習の後、レポートにまとめる。

○小学校セカンドスクールとの関連について

小学校のセカンドスクールと重複している活動内容はあるが、同じであっても発達段階に応じた活動となるように工夫している。

○次年度に向けての反省

今年度は5日間を系統性のあるものとするため、大幅に実施内容を組み替え、毎日のテーマを明確にした。これにより生徒が意識を持って一日一日の活動に取り組めたように思う。また民泊の目的を「農作業体験」ではなく「安曇野生活体験」にしたため、現地受け入れ先を拡大していただくことができた。さらに、稲刈り体験の連携先をJA松本からJAあづみに変更することで、より一層地元住民の方と交流することができた。

改善点としては指導員との連携体制が挙げられる。指導員の仕事を明確にし、教員側のはっきりとした意志を事前に伝える必要がある。また最終日、民泊から宿舎に戻ってきてからの流れ（周辺散策と閉校式の順序）も再考を要する。宿舎の方がおっしゃった「この原風景が安曇野ブランドです。」という言葉通り、安曇野のすばらしい風景を心に残す活動も取り入れたい。